

仙台司教区 教区事務所だより



(第 17 号)
昭和 53 年 7 月 30 日

宮城県沖地震

「仙台」を直撃

去る6月12日、宮城県を中心として、関東、東北一帯を襲った地震は仙台司教区の宮城県、特に仙台を中心にして教会、修道院、施設にも多大の損害を与えた。

7月1日現在、教区事務所でもまとめた被害は、教会諸施設だけでも30か所以上、被害額は、三億円を越えている。

主に、地盤沈下、建物の亀裂、内外壁の剥落、塀の倒壊による被害であるが、大きな被害をうけた諸施設は次の通りである。

● 善き牧者修道院、施設小百合園
被害額推定一億五千万円。施設は

現在居住不能で、子供達は各所に分散して生活している。

● オタワ愛徳修道院 被害三千万円以上。

● 司教館 被害二千万円。

● ラ・サール修道院、施設ラ・サールホーム 被害二千五百万円。

● ナザレト幼稚園、保育園 被害千五百万円。

他に木の下のウルスラ修道院及び小学校の内外壁落下。七北田の百合短大の建物亀裂。北仙台教会の床陥没による被害も大きい。

今回の災害に際して、ローマ教皇庁からは、早速、仙台司教並びに教区民に対して国務長官ヴィヨ枢機卿名をもって、パパ様からの見舞いの電報が寄せられた。又、カリタス・

ジャパンからは、緊急災害援助金として二百万円を、東京大司教区修道女連盟からは八万五千円の義援金が送られてきたが、これらの救援金は、直ちに、罹災した教区民、又は教会と関係ある市民と修道院、施設に配分された。

仙台司教区としては、教区民の各が多かれ少なかれ罹災しているのが、教区内では、罹災者救助の募金活動は行わない方針であるが、比較的被害の少なかつた方々は、比較的多い人々のために、わずかでも、自発的な相互援助活動が行われることを期待している。

仙台の地に

「CLC」が発足



去る5月21日、聖ウルスラ一本杉修道院において、仙台地区での「CLC」(クリスチャン・ライフ・コミュニティ)発足の説明会があった。

主婦、社会人、学生など20名の参加者があり、CLCの特徴、歴史、

日本連盟の現状などが説明され、今後の仙台地区での例会のもち方が話し合われた。

そして、学生、社会人女性、主婦の三つのグループが発足し、その後、各グループで月1〜2回の例会をもち、信仰と生活体験の分かち合いを行っている。

「CLC」の特徴は、①各自が日常生活の場においてどのように生きていくかを真剣に求め、聖霊の導きを読みとっていく。②これは一つの霊操を大切にすること。③これは一つの共同体である。互いのかかわりが本物であるよう、より深いレベルのものとなっていくよう努める。そのため例会を大切にすること。

「CLC」は世界的組織のもので、日本連盟は東京に事務局を置き、全国に約50のグループがある。去る4月より、司祭助言者にネメシユ師（イエズス会）を迎え、今年度は個人黙想に力を入れる方針である。

今年の全国集会は8月17〜20日、京都で開催される。CLC全国大会での交わりの深さはCLCの魅力の一つである。

なお、「CLC」について詳しく知りたい方は、聖ウルスラ一本杉修道院（TEL 022218613557）CLC係へお問い合わせ下さい。

故・早坂久兵衛司教の

お墓を訪ねて：

― 島田師一行 ―

帰天後33年にしてはじめて故・イネウス・早坂久兵衛司教の墓参が去る6月23日、島田実師ら一行によって行われた。

司教の墓は大邱大司教館隣接の、美しく整備された聖職者墓地正面中央の大十字架のかたわらに、セメントで立派につくられている。

同司教は、日本人最初の司教・早坂久之助司教の実弟で仙台市出身。一九四二年（昭和17年）8月29日大邱代牧区の教区長に任命され、同年12月25日、当時の教皇使節パウロ・マレッラ大司教より司教祝聖。一九四六年（昭和21年）1月7日大邱で帰天。

一行は静かに復活の栄光の日を待

つ早坂久兵衛司教の墓前にぬかずき、故人をしのび、心からの祈りを捧げ別れの聖歌を歌いつつ、後ろ髪を引かれる思いで帰途についた。ちなみに、墓参者は司教のめい早坂こう、おい早坂養吉夫妻、親戚小守林タカ、桜岡万利子諸氏及び小野忠亮師、島田実師の計7名であった。

司教様の日程

（7月20日現在）



- 7月2日 堅信式（大河原教会）
- 8日 元寺小路青年会の懇談会
- 10日 司祭評議会
- 11日 宮城県南ブロック司祭集会
- 12日 社会福祉法人理事会
- 16日 司牧評議会
- 19日 スペルマン病院評議会
- 20日 教区法制委員会
- 21日 スペルマン病院理事会
- 24日 青森県司祭集会
- 8月19〜20日 青森・岩手・秋田三県信徒交流
- 26〜27日 カトリック医師会東北支部総会

各地で

幼稚園教職員の研修会

今年も青森、岩手、宮城の各地でカトリック幼稚園連盟主催による幼稚園教職員の研修会が開かれた。

青森県では6月9、10日の二日間、にわたり、安井光雄師（仙台教区司祭・上智大学教授）を講師に、県内19か所の幼稚園教職員一六〇名が参集、八戸で研修会が開かれた。安井師は、「カトリック幼稚園の意義」について、愛するとはどんなことか、教師としての態度等、意義深い話で一人一人の自覚を強めた。又、愉快的講演に日ごろの疲れも忘れ、明日への意欲を燃やしてくれた。

岩手県では6月7、8日、げいび溪において、景山あき子氏（援助修道会修道女）を講師に、「心の豊かさははぐくむ保育」をテーマに講演がなされた。教える側が心豊かになることが第一歩であることを確認し、それぞれ分科会に入った。そして、なごやかなうちにすすめられ懇親会へ移った。



宮城県では、6月29日、仙台白百合学園幼稚園を会場に、三宅みち氏（日本カトリック幼稚園連盟常任委員）を招き、「育てる」をテーマに研修会が開かれた。子供が育つのは育つ力（子供）と育てる力（先生）が合わせられた時に可能である。先生はあくまでも手伝いであり、子供が主体である。又、三種類の子供がいて、①聞いている子供 ②聞かない子供 ③聞きたくないのに聞かされてる子供。④の子供に対して先生はどのように手伝うことができるか等、話し合われた。

青年・姉妹の集い▽紹介

「八木山青年会」 (八木山教会)



結成されたのは、昨年の10月でした。会員の構成は中学生、高校生、大学生、そして社会人と多様で幅の広いものです。もちろん既婚者も含まれており、「青年会」というよりもむしろ気取らない若者の集いといった方が妥当かもしれません。活動内容は主にレクリエーション

を中心としたものが多いようで、例えば、昨年のいも煮会、合宿、クリスマスでの聖歌・余興練習、今年に入ってから春の合宿、そして教会全体で行われた野外ミサ（フォークミサ）の企画といったところです。このような活動の中で二、三の教会の青年会との交換会は、当初の目的でもあった各教会間の親睦を深める意味において大きな成果をおさめたと思っています。

これから夏に向かって色々な行事が企画されていますが、今後の方針として、単なるレクリエーションに留まらず、それを手段として互いの理解を深めて行くことを大切にして行きたいと思っています。

現在、定例会は設けられていませんが、近くにおいでの際は気軽に立ち寄り下さい。

※電話番号変更のお知らせ ***

▽水沢カトリック教会

新0/9721517706

(旧0/9721312926)

▽一関旭町マリア院

新0/9/1231/3356

(旧0/9/21313356)

「主があなたを呼んでいる」

※ 第二回仙台教区
世界召命の日の集い ※

第二回仙台教区「世界召命の日」の集いが6月4日、元寺小路教会を会場に開かれた。

雨の中、仙台市内をはじめ八戸、釜石、千厩等から44名が参加した。午後2時から笹気直哉師(元寺小路)によるミサ、後、オリエンテーションがなされ、佐藤守也師(一関)は御自分が召し出しを感じられたころ非常に心を打たれたアルスの聖ヴィアンネ、幼きイエズスの聖テレジア、ベルナデッタを紹介され、彼らへの神の呼びかけと応えとを力強く語られた。

つづいて修道生活の歴史を時代を追って話され、時代の必要に応じてさまざまな修道会が創立されたこと、又、司祭修道者は徹底的にキリストに結ばれた人であること、さらに司祭修道者の適性等も話されながら、第二バチカン公会議後の修道会の衰退と刷新へと話しは進展した。引き

つづき深沢守三師(西仙台)による召命の歴史が語られた。

その後男女に分かれ、親睦をかねた話し合いがすすめられ、神学校の生活や召命についての質疑があり、最後に、仙台教区にも地の塩、世の光として働く多くの働き人を主が与えて下さるよう祈りながら、ベネズクシオンをもって終了した。



インドへ行く

シスター梅津(ウルスラ会)

来る8月26日、梅津留美修道女はかねてからの念願であったインドへ向けて、成田空港を出発する。

インドでは、何が同修道女を待ちうけているか具体的なことは皆目知られていないが、ヘキ地で貧しい人との共なる生活を、との希望を出したところ、医療関係の仕事に携わっている小さいコミノテがビハール州のランチにあるとのこと。2年間の予定で同修道女は出発するが、途中カルカッタでマザー・テレザたちの修道会に二、三日立ち寄り、30日に

はランチに着くとのこと。

8月6日、一本杉教会で同姉の送行ミサが行われる予定。



「黙想の家」誕生

1 大湊 1

本州の最北、風光明媚の地、大湊に、「黙想の家」が誕生した。

旧被昇天会大湊修道院を借りうけて、同地の主任司祭・横島健二師が広く教区に役立てたいと計画して、実現したもの。

静かに神との語らいの中に、黙想したい人、グループで黙想会を開きたい人。子供達、青少年の合宿、研修をした人など、すべての人に広く開放されている。

宿泊は、10人位まで可能であるがそれ以上のグループのためには、近くにある教会の宿泊施設も10人位までは利用できる。

この夏、利用してみませんか。詳しくは、大湊カトリック教会

「黙想の家」係
(電のノク52141ノク20)まで。

仙台教区 司祭評議会



去る7月10日(月)、佐藤司教、土井総代理、そして、各会より2名ずつの評議員が参集し、仙台・元寺小路教会・信徒館にて、仙台司教区司祭評議会が開かれた。扱われた内容は次のとおりである。

1. 司牧宣教活動の問題
ボーイ・スカウトの問題に集中し結局、勉強不足ということで次回へ持ちこされることになった。
2. 司教委員会教区担当者の件
五つの委員会の担当者が確認された。
3. 一粒会の件
会員の意識昂揚のためにも、まず手始めに、名簿作成に着手することになった。
4. 秋の司祭研修会の件
宿泊場所、会場などが決まったがプログラムの変更があり、最後の決定にはまだ時間を要する模様。
5. 司教様の話し
先の司教委員会からの報告を中心

に、おもに司祭の司牧上のことについて話された。

高齡司祭厚生福祉基金

現在高一千七百五拾万円

教区事務所から昭和52年度の高齡司祭厚生福祉基金の収支決算報告が発表されたが、それによると、53年3月31日現在、基金は千七百五拾三万六千五百八拾八円となった。

この基金は、仙台司教区に所属する高齡司祭の病氣、災害等の医療費、日常生活の扶助を目的として、昭和50年に発足し、今のところ、基金の確立を目指して毎年募金は行っているが、支給はまだ実施されていない。

今年度の基金への繰入額は約四百万円で、その内、教会単位からの寄付金は百参拾万円、修道院関係から五五万円、個人の直接寄付八九万円余となっている。

ちなみに、教区所属の司祭は86名(昭和53年5月現在)、平均年齢は51歳である。各会別にみると、

邦人司祭	33名	平均年齢	49歳
ケベック会	19名	"	48歳
グアダルペ会	7名	"	38歳
ベトレム会	16名	"	57歳
ドミニコ会	11名	"	61歳

コンフエランス(お話し)のため イエズスの小さき姉妹来る

昨年12月のクリスマス・メッセージに引き続き、イエズスの小さき姉妹の友愛会の修道女二人が6月16日、26日来仙。

姉妹たちは約10日間、青森、岩手を中心にスライドと話しを交えながら、フレール・シャルの精神を伝えるため各教会を訪れた。

様々な反応のうち、ある高校生は、どうして姉妹たちのような生活が出来るのか、もっとフレール・シャルを知りたい、との声も聞かれ、概して若い人の関心は姉妹たちの生き方へ向けられたようであった。

ちなみに、全行程ほとんどヒッチハイクで駆け巡った姉妹たちは、6月27日仙台をあとに雨の中、やはりヒッチハイクの帰途についた。

人事往来



☆ バレ師(ケベック会総長)
5月31〜6月26日、視察のため、
来仙。

☆ シヤール・エメ・ボルドック(ケ
ベック会)

6月末日、弘前教会に着任。同師
は、かつて八戸で心のともしびの仕
事に携わり、のち、カナダで3年間
仕事をし、再び来日して1年間日本

第三回宗教教育指導者研修会開催

― 初聖体の子供の準備 ―

去る6月4日、青森カトリック青
少年教育協議会主催による「第三回
宗教教育指導者研修会」が開かれた。
今回は「初聖体の子供の準備」を
テーマに、直接に初聖体の準備に当
たっている司祭、修道者、カテキス
タ、信徒など県内各地から約20名が
集まった。

新松氏(本町教会)を司会に、情

語学校に学んでいたもの。

☆ 三浦平三師(仙台教区司祭・カ
トリック新聞専務理事)

7月22日・23日、仙台地方地震見
舞いのため来仙。

☆ シスタ1福岡光(聖パウロ女子
修道会管区長)

7月22日・23日、仙台修道院新院
長シスタ1原を同伴、来仙。

☆ 高田又明様(高田徳明師の御尊
父) 5月13日御死去。14日、浪
打教会で通夜。15日葬式が行われた。

報交換を中心として、具体的な話し
合いがなされた。

初聖体は小学校一年生になってか
らの復活祭が望ましい。そのため
10月ごろから週一回、一時間位の割
合で、聖体のことを死と復活との
関連づけで指導する。親とのつなが
りは、子供に宿題を出すことによつ
て、親も子供の初聖体の準備にかか
わる場を見いだすようになる。その
他、当日の典礼、子供の服装、祝い
の仕方、記念品等のことが話され、
初聖体以後の指導に関しては教会学
校に引き継ぐということになった。

・偽司祭の

ミサ謝礼サギに御用心!

最近、ニルス・イヴェルセン・カラアス
コ (Mr. Nils Iversen Carasco) と
名乗る偽司祭が、ミサを捧げるから
と言って謝礼を求めている事件がト
ルコで発覚し、日本においても、用
心するようにとの注意が、中央協議
会を通して教皇大使から各教区に伝
えられた。

日本のカトリック的宗教土壌は、
欧米のそれとは大部異なり、そう簡
単には、この種のサギが出来るとは
思われないが、それにしても、用心
するにしくはない。

秋田では、宣教師が物盗りに殺さ
れ、東京では修道女が物乞いに殺さ
れる御時勢。聖職の世界も、何かと
騒々しくなってきたこのごろではある。



仙台司教区事務所だより第17号
昭和五十三年七月三十日発行
発行所 仙台司教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7371